

教育が抱える課題

【国及び本市における共通の課題】

- 子どもたちの多様化（貧困、不登校児童生徒数の増加等）
- 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組の必要性
- 加速度的に進展する情報化への対応の遅れ
- 教師の長時間勤務による疲弊 など

【本市固有の課題】

- 学校規模の差による規模適正化（小規模校・大規模校が混在）
- 中学校では全国学力・学習状況調査における教科学力が全国平均以下であり、学力低位層の割合が高い。小・中学校ともに家庭学習時間が少ない。
- 子どもたちが抱える課題に対する学校間における対応力の差 など

次代を担う子どもたちの未来を見据えて

【急激に変化する時代】

- 社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる「Society5.0時代」
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」
- 社会全体のデジタル化・オンライン化、DX加速の必要性

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

【学校（学校教育）】

- これからの学校には、一人ひとりの児童生徒が、**自分のよさや可能性を認識**するとともに、**あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働**しながら様々な社会的変化を乗り越え、**豊かな人生を切り拓き**、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

【国際的な動向】

- 子どもたちのWell-being**を実現していくために**自ら主体的に目標を設定し振り返りながら、責任ある行動がとれる力**を身につけることが重要。
- SDGsなどをふまえ、自然環境や資源の有限性、貧困、イノベーションなど地域や地球規模の諸課題について子ども一人ひとりが自らの課題として考え、**持続可能な社会づくりにつなげていく力**を育むことが必要。

※ Well-being（ウェルビーイング）とは

OECDは「PISA2015年調査国際結果報告書」において、Well-being（ウェルビーイング）を「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な、心理的、認知的、社会的、身体的な動き（functioning）潜在能力（capabilities）である」と定義している。

これからの堺の学び



個別最適な学び
協働的な学び

授業の改善

新たな
授業形態

ベスト
ミックス

進化した
一斉授業

カリキュラムの改善

小中一貫カリキュラム

これまでの
スタイル

画一的な学び
従来の一斉授業

校種別
小中分離
カリキュラム

学級集団と
学習集団の区別

既存の学校施設を活用し、
最大の教育効果を発揮する
小中一貫教育

これらを支える“学校群を中心としたマネジメント”

チーム学校

コミュニティ・スクール

人事

予算

etc

教育が抱える課題の解消と子どもたちの未来を見据えて

【目 的】すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び
【めざす学校】子どもの未来をつくる学校 ～自主性・自律性に富んだ自立した学校～

小中一貫教育のさらなる充実 ～カリキュラムの改善と授業の改善～

- 中学校区内の小・中学校が「9年間の教育目標」を設定共有し、その実現を図るため、9年間を見とおしたカリキュラムを編成し、系統性・連続性を意識した教育活動に取り組み、確かな学力と豊かな心、健やかな体の育成に取り組む。
- 個別最適な学びと協働的な学びに向けた、新たな授業形態と進化した一斉授業のベストミックスをめざす。



中学校区を一体的にマネジメントする小中一貫教育体制の構築

教 育 期 待 される 効果	○中学校区全体を見通した総括的な中学校区マネジメントによる教職員の相対的増加 ○小・中学校の一体的なカリキュラムと授業の改善による児童生徒の学力向上 ○小・中学校の一体的な学校生活や生徒指導の充実による、「中1ギャップ」の緩和や暴力行為、いじめ、不登校等の減少 ○中学校区を単位としたコミュニティ・スクールの導入による、地域の教育力の強化 ○学校規模により生じる課題の解消	など
----------------	--	----

財 政 考 え ら れ る 効果	○一体化による ・ 余裕教室（普通教室や特別教室等）の有効活用 ・ 体育館、プールの維持管理経費の削減や将来の改築に係る費用の削減 ・ 校務分掌の効率化 ○学校の自立による教育委員会組織の効率化	など
------------------	--	----